



こんにちは!
菊地葉子です

～道政報告～ No.32

2018年6月号

政府交渉

地域生活に欠かせない交通手段 北海道の鉄道維持を求めろ!!

JR北海道が全路線の半分以上を「単独で維持困難」と路線切り捨てを打ち出してから1年半経過しました。道議団は5月25日、北海道の鉄道路線維持にかかわって関係各省に要請しました。

緊急・切実21項目の要求

国土交通省には北海道内の鉄道路線の全線維持と国の支援策など17項目です。

財務大臣には国の想定を超える北海道新幹線の大幅な赤字についての認識と今後の経営見通しなど2項目、鉄道運輸機構には札幌延伸工事については今後の交通需要予測の再検証、収支採算性の再検討と延伸工事に伴うトンネル残土の処理について健康や安全対策への万全について見解を求めました。



国交省に要請する議員団 (左から3番目: 菊地道議)

新幹線の赤字で在来線廃止はあり得ない

JR北海道は6月以降、切り捨て対象路線に通学バス運行を打ち出し、あくまでも鉄路廃止を狙っています。

国交省担当者は「JR北海

道には効率化や営業努力をしてもらい、収支改善の取り組みを求めて地域と協議を考えたい」と地域への負担を当然視しました。

現在北海道新幹線の赤字は、すでに当初想定額の2倍以上、103億円にも膨らんでいます。要請団は「そもそも赤字になるとわかっていて分割・民営化をしたのに、黒字化のために地域に負担させて足を守るとは国の責任放棄ではないか。北海道新幹線の経営見直しをすべき」と批判し、「道民としては、新幹線を札幌まで延伸し、赤字のしわ寄せで在来線が廃止されるのは納得できない」と発言しました。

菊地道議、党国会議員らと共に苦小牧調査

カジノを含むIR誘致を進める苦小牧市

安倍内閣・与党が国会

会中に「カジノ実立法」の成立を狙うなかで、菊地葉子道議は日本共産党の大門実紀史参議院議員らとともに、IR（カジノを含む総合型リゾート施設）の誘致を進める苦小牧市を訪問し調査しました。「国際リゾート戦略構想」に対して「なぜカジノを含むIRなのか」との質問に市担当者

カジノは賭博! やめるべき

は「カジノによる経済効果は収入面で大きい。カジノがないIRは機能せず雇用規模も小さい」と答えました。

と答えを避けました。その後、調査団は建設予定地域を視察しました。



苦小牧市と交渉する調査団 (右端: 菊地道議)

北海道にカジノはいらない!

は別次元で考えていく

調査団は「そもそもカジノは賭博。海外資本はうまくいかなければすぐ撤退することもあり、リスクは大きい」「ギャンブル依存症などの対策は」と質問。「リスク対策は必要。依存症対策は別次元で考えていく」



小樽の人口減、どうするのか？少子化対策は... —桜地域で道政報告会—



道政報告を行う菊地道議

菊地葉子道議は5月7日、ふれあい桜において道政報告会を開催し、44名が参加しました。

2015年の選挙でそれぞれ1名だった共産党道議は4議席となり党派として代表質問できるようになったこと、9つの常任委員会・6つの特別委員会にそれぞれ4人の委員が参加できるようになった事を報告。

介護・保育現場の人員不足の問題や教職員の働き方などの問題をとりあげてきたこと

共産党道議団が長年とりあげてきた遠隔地での出産を余儀なくされている妊婦の検診・出産への助成制度が実現した事などを報告しました。

会場から
多数の意見や質問

会場からは、「道議会庁舎の建て替え」「札幌周辺の新築マンションが建設前から売却済みになっている」「新幹線トンネルの残土問題」などについて意見や質問がありました。とりわけ「小樽市の人口減少が心配。夕張の様にならないために、共産党の少子化対策は」と切実な声もありました。

全国に比べて非正規比率が高い若い人達の働き方を改善し子育て世代、高齢者の負担軽減のための予算を重視すること。国民の足北海道の鉄道維持に国への責任、道の役割を明確にすることが今大事な事と述べました。

北海道新幹線トンネル残土問題

4月27日、菊地葉子道議は道議団や札幌・小樽の共産党市議団とともに、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備機構（鉄道・運輸機構）北海道新幹線建設局から北海道新幹線トンネル掘削工事等についてヒアリングを行いました。

北海道新幹線新函館北斗～札幌間は2030年度の完成をめざし工事が行われています。小樽市内では後志トンネル、朝里トンネル、札幌トンネルが掘削予定です。朝里川温泉石切山と塩谷4丁目の土地の掘削土受入候補地として地域説明会が行われています。

重金属検出の

札幌トンネル掘削土

札幌トンネルでは機構の事前調査でヒ素や鉛、水銀などが検出されていて、説明会参加者からも懸念の声が出ています。



札幌市役所でヒアリングする菊地道議（後方右から3番目）

ヒアリングで機構側は、有害重金属について「自然由来のものであり存在自体が危険ではない」「トンネル残土は土壌汚染対策法上適用外」と説明。札幌市盤渓地区には無対策土（きれいな土）のみを搬入することを示しました。

札幌トンネルの掘削土にはすでに重金属が検出されており、このうち対策の必要のない分のみ札幌市盤渓に搬送するならば、重金属を含む対策土を小樽地区に搬入することになります。

そもそも自治体で発生した掘削土はその自治体が受け入れるべきで、対策の必要な土は小樽地区へというのも納得いきません。掘削土に関するデータの公表や安全対策について住民合意なしに工事がすすめられるべきではありません。

生活相談をうけています

- ・月曜日～金曜日
- ・午前10時～午後4時

菊地葉子事務所

小樽市稲穂 1-12-205

ステーションハイツ

☎64-5591



6月定例道議会 菊地葉子道議が一般質問

6月23日午後予定です。（時間が不定なため）
集団での傍聴は計画していませんが、菊地道議は今期最後の一般質問になります。
ぜひ多数の皆様のお傍聴をお願いします。